

取り組み紹介【働きやすい職場づくり】

医療法人社団尚成会 近間病院

海外技能実習生のスムーズな受け入れに向けた取り組み



所在地：宮崎県宮崎市山崎町965番地6
病床数：50床（療養型病床 50床）
職員数：60名 医師 4名（非常勤3名）
看護師 22名
看護補助者 9名
医療技術職 14名
事務職 11名

① 課題・背景

背景 : 2024年4月現在、宮崎県では2400人の介護職員不足、第9期介護保険事業計画：7000人不足の試算
背景をふまえての課題：①看護補助者の総数が当時6名と少なく、日勤帯は2~3名で、看護師と協働しても週に2回の入浴介助も実践できない。
②看護補助者の募集はかけているが、半年で1名の応募しかなく、看護職員の負担が増大



目的・目標

目的：患者に安全で信頼される看護・介護を提供する

目標：①海外技能実習生を雇用するにあたり、介護技術や日本語の教育が担保された人材を確保する

②当院の職員が海外技能実習生の母国文化や歴史を学び、相互理解を深めることで協働できる職場環境を作る



取り組み内容

①2024年6月 グループである「くまかい協同組合」より制度の説明を受け、希望の人材等の条件を確認

②同月、3名の海外技能実習生の雇用手続きを開始

桜十字グループ くまかい協同組合がミャンマーに設立した日本語学校の教育内容



- ✿ 日本語コミュニケーションのトレーニングとして240時間
- ✿ 介護技術のトレーニングとして128時間
- ✿ 入国後に1か月間、さらに日本語の教育を132時間と介護のトレーニングを42時間
- ✿ 桜十字病院の現役の介護リーダーが直接、教育・指導



合計542時間!!

③雇用までの約半年の準備期間：お互いの理解が深まるように調整

⇒選考と決定：現地で候補者を募り、リモート面接を行ったのち、採用を決定

⇒事前準備

技能実習生に向けて⇒実習責任者・指導員・生活指導員の選定、業務手順書の仮名ふり、初回生活用品の準備
当院の職員へ向けて⇒海外人材受け入れまでのスケジュールの説明、進捗についての共有

ミャンマーの文化や歴史について、病棟会などで学習

⇒書類申請：人材が日本へ入国し就業するための申請書類を、くまかい協同組合が作成を支援

⇒ビザ申請：交付された在留資格証明書を海外現地送出機関に送付⇒この行程も支援あり

⇒入国：くまかい協同組合職員が空港まで出迎え、技能実習生に対しては、1か月間の講習

講習内容は警察署による交通ルール指導、防災指導のほか、労働関係法令、マナー、ごみの分別方法等

④オリエンテーション時：住居となる地域のハザードマップも一緒に確認し、浸水リスクなどを共有

⑤入職後：くまかい協同組合の訪問指導(1回/月)時に一緒に面談⇒心身の健康管理

成果・効果

①3名の海外技能実習生を2025年2月より雇用

✿ 入職後に介護技術や日本語の教育に関して、改めて行う必要はなかった
⇒現場での教育コストを削減できた

②雇用の翌日から、介護士や看護師とペアで入浴介助などの業務を行った

✿ 日本語のコミュニケーションにも支障なく、多職種との協働が実現した



みんなの声

- ・元気がいい（患者さま）
- ・看護師が少ない時でも、オムツ交換などをお願いできるから、看護業務に専念できるようになった（看護師）
- ・（介護技術を）一から教えなくてもできるから、すごい（介護士）